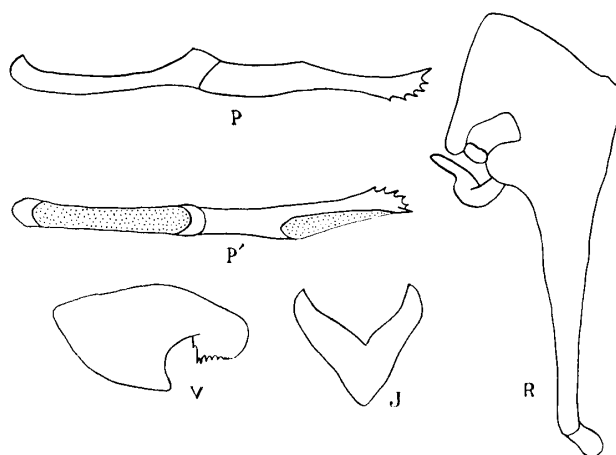
茨城県産蝶類6種について

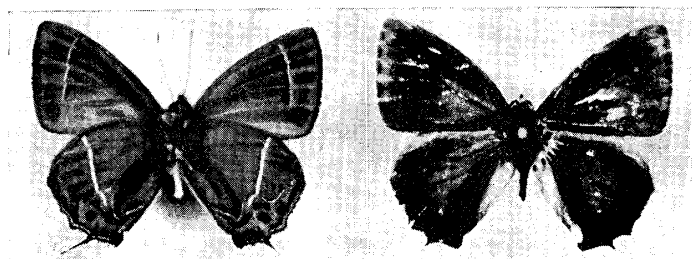
塩田正寛・鈴木保男・篠葉利夫
日立市大沼町桑原前 1412・日立市油縄子町 45 吼洋寮・水戸市渡里町 3260 小林方

1. *Favonius yuasai* Shirôzu クロミドリシジミ
1967年6月11日，東茨城郡御前山，1♂，篠葉利夫

ここに報告するものは，先に篠葉（1967）が報告した[1]ものと同一のものであるが，若干付記したいと思う.

日本におけるクロミドリシジミの採集地点を第1図に示した．御前山を除く他の地点は植物相的にみると，いずれも冷温帯林地域に属するものと考えられる[2]．御前山は，海抜180 m，アラカシやシラカシなどの常緑広葉樹でおおわれ，暖温帯林的景観を示しており，第8図に示したように暖温帯性植物分布の北限付近にある[3]．この点で御前山は他の地点より特異的と考えられる.

クロミドリシジミの食餌植物であるクヌギ[4]は，茨城県の場合，県内全域（暖温帯〜冷温帯）に広く分布している.

第2図　茨城県御前山産クロミドリシジミ（*Favonius yuasai* Shirôzu）の♂交尾器.
P : Phallus (側面), P′ : Phallus (上面), V : Valva, J : Juxta, R : Ring.

第1図　日本におけるクロミドリシジミ（*Favonius yuasai* Shirôzu）の分布（白水，日本の蝶，1965より作図）

第3図　茨城県御前山産クロミドリシジミ（*Favonius yuasai* Shirôzu），♂

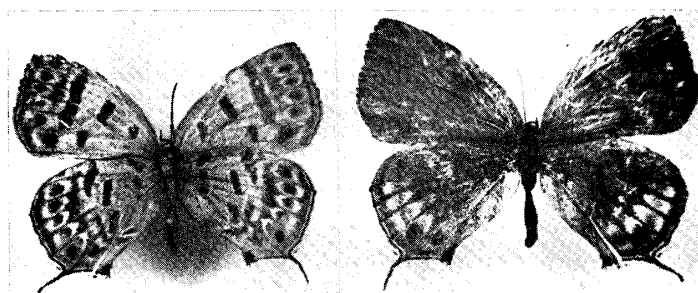
2. *Wagimo signata* Butler f. *quercivora* ウラミスジシジミ
1967年8月2日，北茨城市花園，1♂，鈴木保男

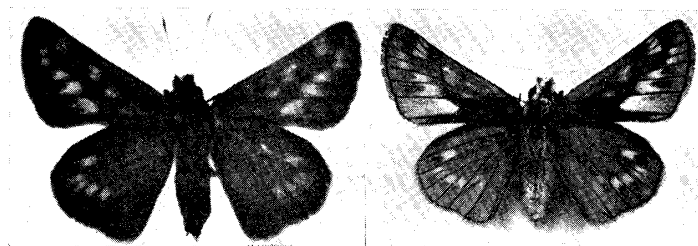
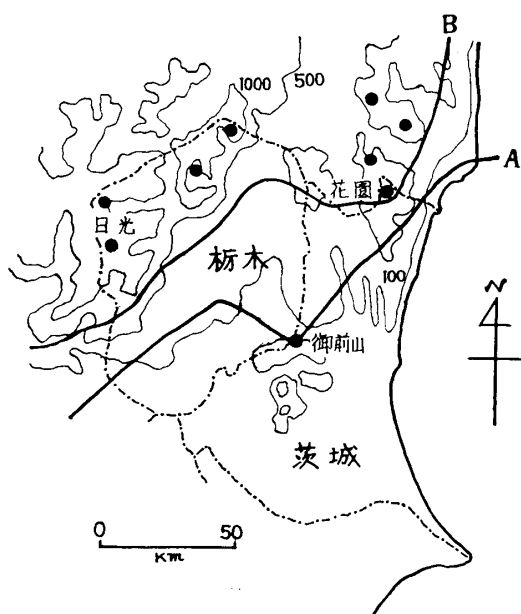
第4図　茨城県北茨城市花園産 ウラミスジシジミ（*Wagimo signata* Butler f. *quercivora*），♂

茨城県のウラミスジシジミは，先に塩田(1964) の報告[5] があるが，ここに報告したものは2回目のものである．

3. *Antigius butleri* Fenton ウスイロオナガシジミ
   1967年8月2日，北茨城市花園，1♀，鈴木保男

4. *Shirozua jonasi* Janson ムモンアカシジミ
   1967年8月12日，北茨城市花園，1♀，鈴木保男

5. *Oclodes venata herculea* Butler コキマダラセセリ
   1967年6月24日，北茨城市花園，1♀，鈴木保男

第5図 茨城県北茨城市花園産ウスイロオナガシジミ (*Antigius butleri* Fenton), ♀

第6図 茨城県北茨城市花園産 ムモンアカシジミ (*Shirozua jonasi* Janson), ♀

第7図 茨城県北茨城市花園産 コキマダラセセリ (*Ochlodes venata herculea* Butler), ♀

第8図 北関東における植物の分布 (鈴木, 1960 より)

A 暖温帯植物の分布北限

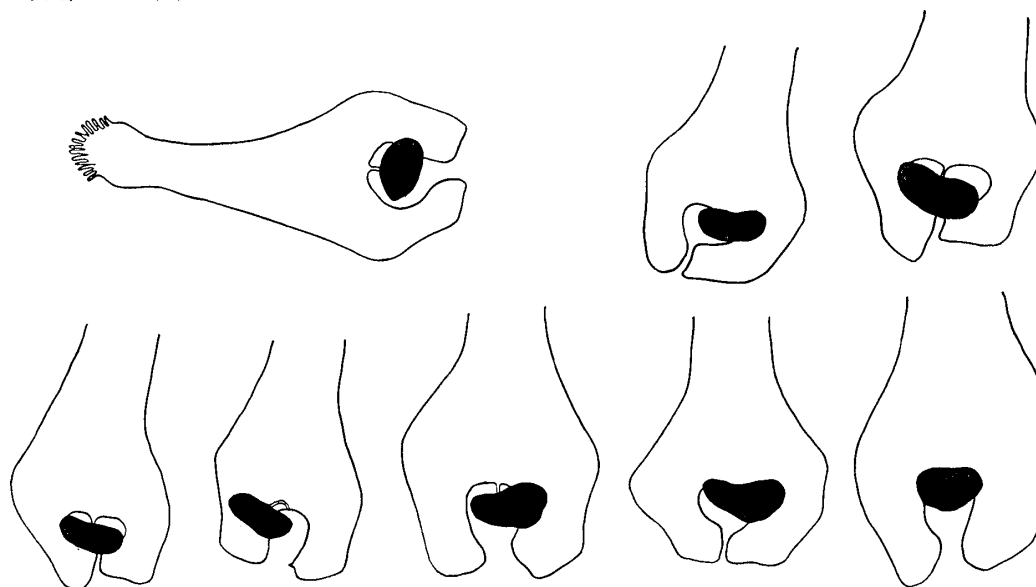
B 中部山岳にみられる植物の分布線

第9図 茨城県北茨城市花園産エゾスジグロシロチョウ (*Pieris napi japonica* Shirôzu), ♂

上記のウスイロオナガシジミ・ムモンアカシジミ・クロミドリシジミ・コキマダラセセリの4種は茨城県では初めての記録である．クロミドリシジミを除く3種の採集地である花園は，海抜 700〜750 m の山地で，ミズナラ・ブナなどの落葉広葉樹でおおわれ，中部山岳・日光・那須等に産する植物が太平洋岸にのびてきたと考えられる地域[3] (冷温帯林地域) にある．花園で採集された3種は，茨城県付近では，福島県水石山・三株山，栃木県日光・那須・塩原・奥鬼怒など[6] の冷温帯林地域で採集されている．

6. *Pieris napi japonica* Shirôzu エゾスジグロシロチョウ

1967年6月11日，北茨城市花園，1♂，鈴木保男

茨城県のエゾスジグロシロチョウについては，枝 (1959) の報告[7] がある．ここに報告するものは第9図に示したように，スジグロシロチョウとほとんど区別がつかないが，翅表の発香鱗を顕鏡したところ第10図のような結果を得た．発香のうの横幅が，発香鱗の最大幅の 1/2 をこえないことからエゾスジグロシロチョウと判定した[4]．

第10図　茨城県北茨城市花園産 エゾスジグロシロチョウ (*Pieris napi japonica* Shirôzu) の♂発香鱗

引用文献

1) 篠葉利夫 (1967)　蝶と蛾，18：1〜2.

2) 河田 杰 (1953)　林業試験場研究報告，No. 63.

3) 鈴木昌友 (1960)　北陸の植物，8：1〜4.

4) 白水 隆 (1965)　日本の蝶 (北隆館).

5) 塩田正寛 (1964)　茨城県蝶類分布図集 (自刊).

6) 昆虫愛好会 (1963)　栃木県の蝶.

7) 枝 重夫 (1959)　新昆虫，12：2.

ゴマダラチョウ卵縦条数の変異

白水　隆・鈴木　光

九州大学教養部生物学教室

1968年8月3日，福岡県粕屋郡若杉山で鈴木光が採集したゴマダラチョウ *Hestina japonica* C. et R. Felder 夏型1♀より採卵を行い，8月4日より6日にかけて 170 卵をえたが，この中から任意抽出の 141 卵について卵縦条数の変異を調べた結果は次の通りであった．すなわち条数の変異は 17〜21 で，19 のものが最も多かった．

卵縦条数	17	18	19	20	21
個体数	2	41	64	36	1